

■地層

地層の種類からそのころの環境がわかる

環境の順番からそのころ起こったこと

柱状図

れき岩層 ← ⑥このころは()だった()が起こった

砂岩層 ← ⑤このころは()だった()が起こった

泥岩層 ← ④このころ()ができた()が起こった

れき岩層 ← ③このころは()だった()が起こった

凝灰岩層 ← ②このころは()だった()が起こった

①このころ()の近くだった←()が起こった

どっちが新しい地層か?

地層が深い海から浅い海に変化したらこのとき()が起こったということがわかる

隆起

地層が浅い海から深い海に変化したらこのとき()が起こったということがわかる

沈降

人工的に削ったり、自然にできた崖など地層が地表に現れているところを()という

露頭

■地震

地震が発生した場所の真上の地表の地点を()という

震源に近いほど震度は大きい(揺れが大きい)

震源から遠くなると震度は小さい(揺れが小さい)

震度は()段階

震度()

震度()

震度()

震度()

震度()

震度()

震度()

震度()

震度()

震度()

震度()

震度()

震度()

震度が大きい ↑

震度が小さい ↓

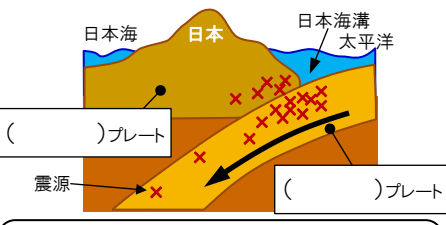
地震の規模は()で表す

地震の揺れの大きさは()で表す

震源からの距離

地震の規模は()で表す

地震の揺れの大きさは()で表す

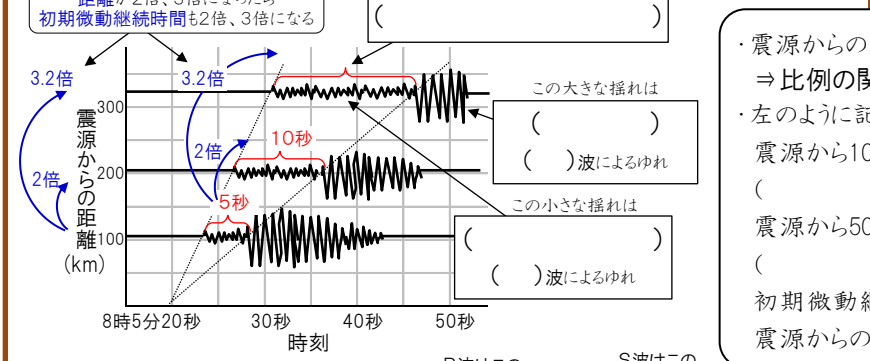


震源が多いのは太平洋側では()場所
日本海側では()場所
地震が発生しやすいのは()
「太平洋側」?
「日本海側」?

浅い

深い

太平洋側



震源からの()と()は ⇒ 比例の関係

左のように記録された地震の場合、震源から100kmの場所での初期微動継続時間は()秒なので
震源から500kmの場所での初期微動継続時間は()秒
初期微動継続時間が30秒であった場所の震源からの距離は()km

距離

初期微動継続時間

5秒

(100:5=500:X)

25秒

(100:5=X:30)

600km

地震の速度

2つの地点で考える

き:AからBまでの距離は:AからBまで進む速さ

この3つのうち2つを問題文から見つけ出し 残りの1つは計算で求める

き:AからBまでかかった時間

(A) (B)

P波はこの2点で考える

S波はこの2点で考える

震源からの距離

S波がかかった時間

時刻

震源からの距離

A地点の揺れ

B地点の揺れ

時刻

9時7分10秒 7分20秒 7分30秒

この地震のS波の速度は()

P波の速度は()

(速さ=距離÷時間) (=100km÷10秒) 毎秒10km

(速さ=距離÷時間) (=100km÷5秒) 毎秒20km

()化石 ()年代がわかる化石

()期間に()範囲で繁栄していた生物

三葉虫 恐竜 マンモス

フズリナ アンモナイト ビカリア

()代 ()代 ()代

断層の種類

断層の種類

断層の名称

【 】

作られ方 (両側から)

断層の名称

【 】

作られ方 (両側から)

断層の名称

【 】

アンモナイトの化石が見つかったら、この地層は()ということがわかる

中生代の地層

サンゴの化石が見つかったら、この地層は()ということがわかる

暖かく浅い海の地層

地震を起こす可能性がある活動中の断層のことを()という

活断層

()化石 ()がわかる化石

()環境で生息していた生物

サンゴ カキ・ホタテ シジミ フナ

()くて 浅い海 湖や河口 やや寒冷な地域

()海

下図のような地層形状の名称

【 】

右図のような地形の名称
海だったら()
川だったら()

海岸段丘

河岸段丘

段丘は、流水や波による()と土地の()が繰り返されることでできる

浸食

隆起